

報告事項ウ

平成22年度地方教育行政功労者表彰被表彰者について

平成22年度地方教育行政功労者表彰被表彰者について、別紙のとおり報告します。

平成22年10月29日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成22年度地方教育行政功労者表彰被表彰者について

教育総務課

1 表彰趣旨

地方教育行政において、その功労が特に顕著な教育委員会の委員に対して、その功に報いるとともに、地方教育行政の発展に資するため、文部科学大臣が表彰するもの。

2 被表彰者、表彰式

<被表彰者> 山田修平（65歳）鳥取県教育委員会委員 山本静夫（60歳）前日南町教育委員会教育長	<表彰式> 日時 10月22日(金)12時20分から 場所 東京都千代田区「文部科学省講堂」
--	--

3 被表彰者の主な功績

山田修平（やまだ しゅうへい）	
略歴	鳥取県教育委員会委員（平成15年12月から現在） 〔鳥取県教育委員会委員長（平成16年10月から平成21年10月）〕
主な功績	学校教育の充実 子どもたちが主体的に勉強に取り組む雰囲気作りを推進することを目的に「勉強がんばろうキャンペーン」を展開するなど、義務教育の充実に取り組むとともに、特色ある学校運営を推進するため、県立学校長が独自性を発揮した学校運営ができるよう、学校裁量予算制度を導入するなど、学校運営組織体制の充実に努めた。 学校・家庭・地域との連携 子どもたちの健全育成を図るため、基本的な生活習慣やルール・マナーの定着をめざした「心とからだいきいきキャンペーン」を実施し、普及啓発活動、保護者や県民が集まる機会を捉えた出前説明会の開催など、学校・家庭・地域が連携した様々な取組みを推進した。 子どもの読書活動の推進 未来を担う子どもの心豊かな成長を促進するため、子どもの読書活動の推進に積極的に取り組んだ。特に、本県の小・中・高等学校における朝の一斉読書の実施率は全国トップレベルであり、本に親しむ機会として大きな成果を上げた。 社会体育の充実 県民のスポーツ・レクリエーション活動への参加意欲を喚起し、生涯スポーツの振興を図るため、毎年、県民スポーツ・レクリエーション祭を開催している。特に、平成18年度に本県で開催した第19回全国スポーツ・レクリエーション祭では、県民が様々な形で祭典に関わることを契機として、地域に根ざした生涯スポーツの一層の振興に努めた。 文化財活用の推進 国内最大級の弥生時代集落「妻木晩田遺跡」、地下の弥生博物館「青谷上寺地遺跡」の二大遺跡を、「とっとり弥生の王国」と呼び、総合的に情報発信することで、史跡の価値を多くの方に認識してもらい、更なる活用の充実に努めるなど、文化財の積極的な活用及び普及活動に取り組んだ。
山本静夫（やまもと しずお）	
略歴	日南町教育委員会教育次長（平成6年4月から平成8年3月） 日南町教育委員会総務学事課課長（平成8年4月から平成14年5月） 日南町教育委員会教育長（平成14年5月から平成22年5月）
主な功績	学校教育 平成16年に町単独自立と行政改革の方針として、小学校改築の凍結と小学校のあり方の再検討が出されたことを受け、教育長として広く町民の意見集約を図り、平成17年度に町長部局、教育委員会部局で「小学校統合」を決定。その後、具体的な方針決定を行いながら、平成21年3月に小学校と中学校併設の「日南小学校」の建設に貢献した。 生涯学習 生涯学習の重要性を認識し、町民の生涯学習の拠点として日南町総合文化センターの整備に貢献した。この施設は、町民の学習活動の場として日夜活用されており、「まちづくりは人づくり」という本町の生涯学習の理念を引き継ぎ、学校の授業や文化活動発表の場として有効活用に尽力した。 文化振興 町内に伝承されている神楽や郷土芸能の継続保存と後継者の育成及び助成に尽力し、平成14年に本県で開催された国民文化祭で本町に神楽会場を招致。日南町教育文化振興協会を設立し、年間を通して町民が優れた文化芸術に触れる機会をつくり、町民ミュージカルの育成など町民自らが文化活動に参加し地域に根ざした活動の推進に努めた。 人権学習 人権意識の高揚と人権学習の推進の重要性を認識し、小地域懇談会、合同の職場研修会、各団体等における研修会及び交流会の開催など人権問題に関する学習機会の拡充に努め成果をあげている。自らも日南町同和教育推進協議会の事務局長として長く就任し、率先して人権学習の推進に貢献した功績は大きい。

